

第2学年 国語科の実践

1 単元名 二つの せつめいを くらべよう

教材名 「ふろしきは、どんな ぬの」(東京書籍 新しい国語 2年上)

2 単元の見目

- 説明の違いに興味をもって、進んで二つの文章を読もうとしている。
【国語への関心・意欲・態度】
- ◎ 二つの説明の文章の、説明の仕方の違いを考えながら読み、それぞれに書かれている内容を正しく読み取ることができる。
【読む能力】
- 二つの文章の中で線を引いた大事な言葉や文を書き抜くことができる。
【読む能力】
- 主語と述語の照応に注意して文章を読み取り、説明カードを書くことができる。
【言語についての知識・理解・技能】

3 付けたい力と言語活動

本単元の重点指導事項は、学習指導要領におけるC読む(1)イ「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。」である。ここでは、文章に書かれている内容を正しく読み取るとともに、二つの文章を比べて読む活動を通して、説明の仕方や文章の構成などの表現方法に着目しながら読む力を育てることをねらいとしている。

そこで、本単元では、「おすすめ道具店」を開くために、おすすめカードを作るという言語活動を設定した。道具店を設定することで、相手に一目で分かりやすくおすすめする点を伝えるカードの必要性を感じられる。そのため、短い文章で伝えることのできるカードを作るという意識をもつことができると考える。

4 司書教諭と学校司書との関わりについて

ふろしきや道具に興味・関心が高まるよう、教材文の読み取りとは別に、道具に関する本の並行読書を行いながら学習を進める。第一次には、学校司書によるふろしきの説明の載っている本の紹介、目次、索引で調べること、並行読書の紹介などを行い、児童がこれから行う学習に興味をもてるようにする。また、道具に関する本なども紹介することで、関心を高めていきたい。第三次の学習においては、司書教諭も一緒に授業の指導を行い、道具の本などから情報を読み取る支援をする。また、扇子の文章から大事なことを読み取る学習のときにも、司書教諭がT2として児童の支援を行っていく。

また、並行読書で扱う本や、読み取る資料については、司書教諭、学校司書と連携して選書を行う。

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○説明の違いに興味をもって、進んで二つの文章を読もうとしている。	○二つの説明の文章の、説明の仕方の違いを考えながら読み、それぞれに書かれている内容を正しく読み取っている。 ○二つの文章の中で線を引いた大事な言葉や文を書き抜いている。	○主語と述語の照応に注意して文章を読み取り、カードを書いている。

三 次	10	○「扇子」の文章を音読して内容を読み取ることができる。	○「扇子」の文章を音読して内容を読み取る。 扇子コーナーを体験する。 司書教諭による情報の読み取りの支援。				○文章を読んで、書かれている内容を読み取ることができる。 【読】
	11 本 時	○「扇子」の文章から、カードに書く部分を読み取り、線を引くことができる。	○「扇子」の文章から、カードに書く部分を読み取り、線を引く。 司書教諭による情報の読み取りの支援。		○		○文章から、便利な点が短くまとめているところに線を引くことができる。【読】(ワークシート・発言)
	12	○線を引いたところをカードに書くことができる。	○主語と述語とを照応させてカードに書くことができる。 ○図書資料を読んで、調べる。			○	○主語と述語とを照応させてカードを作ることができる。【言】(カード)
	13	○「おすすめの道具店」を行い、単元の学習を振り返ることができる。	○「おすすめの道具店」を行い、単元で学習したことを振り返る。	○	○		○同じ対象を伝える文章にも、目的に応じて違う形式があることを理解している。(発言・ノート)【読】 ○本単元の学習を思い起こし、二つの文章の違いを考えたか振り返っている。(発言・行動観察)【関】

7 本時の学習 (第3次 11時間目)

(1) ねらい

扇子の文章から便利な点が短くまとめているところを読み取って、線を引くことができる。

【読む能力】

(2) 展開

学習活動と予想される児童の反応	教師の支援	評価 (評価方法)
1.前時までの振り返りをする。 ○扇子についてのおすすめ道具店を開くためにカードにすることを確かめる。	○おすすめ道具店を開くことを確認することで目的意識がもてるようにする。(T2)	
2.本時のめあてを確認する。 カードに書くところに線を引こう。	○カードに書くのは、おすすめするとき伝えたい便利な点が、短くまとめているところであることを確認する。(T1)	○道具店をするためにカードを作ろうとしている。【関】(観察・発言)
3. ワークシートの文を読み、カード	○どこに引くか困っている児童には、文章	○文章から、便

<p>に書くところに線を引く。(鉛筆)</p> <p>カードに書く扇子の便利なところに3つ線を引きましょう。また、線を引いた理由も書きましょう。</p> <p>○個人で線を引き理由を書く。</p> <p>○引いたところや線を引いたわけをペアで伝え合う。</p> <p>○ペアで確認したことをもとに個人で直したり、確かめたりする。</p> <p>○線を引いたところを全体で確認する。(赤線)</p> <p>4.線を引いた理由について話し合う。</p> <p>どうしてここに線を引いたのかな。線を引かなかったのはなぜかな。</p> <p>○全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいよさがまとめて書いてあるから。 ・たとえばなどの詳しい説明がしてあって、カードに書くには長いから。 ・わけが書いてあるから、カードには書かない。 <p>5.次時への見通しをもつ。</p>	<p>を一緒に読んだり、ふろしきの例を見て考えたり、段落ごとに1文ずつ選ばせたりするように声をかける。(T1.T2)</p> <p>○ふろしき売り場にあったカードを思い起こし、カードの文の特徴を確認する。</p> <p>○ペアで確かめて違うところがあったとき、どちらがよりカードにするのに適しているか考えるように声をかける。(T1.T2)</p> <p>○ワークシートに理由を書き込みにくい子には、教師が口頭で聞き出すことで書き方を示し、記入するようにする。(T1.T2)</p> <p>○ふろしきの学習でまとめたことと比較しながら確認していく。(T1)</p> <p>○カードに書く文として選ばなかった理由を押さえる。(T1)</p> <p>○次回は、線を引いたところをもとにカードを作るということを伝える。</p>	<p>利な点が短くまとめてあるところに線を引くことができる。【読】(ワークシート・発言)</p>
---	---	--

(3) 視点

○カードに書く部分に線を引いたことは、便利な点が短くまとめてあるところを読み取るために有効であったか。

(4) 本時の評価

	十分満足できると判断される児童の具体例	おおむね満足できると判断される児童の具体例	支援を必要とする児童への指導の手立て
読む能力	<p>○要旨をつかんで、便利な点が短くまとめてあるところを読み取っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詳しく書いてあるから、カードには書かない。 ・例が書いてあるから、カードには書かない。 ・理由はカードに書かなくてもいい。 	<p>○文章から、扇子を紹介する上で便利な点が短くまとめてあるところに線を引くことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・扇子のよさが短く書いてあるからここに線を引いた。 ・大事なことが書いてある。 	<p>○線を引く理由が分かりにくい児童には、既習の文章の構造に着目させる。</p>

【扇子の文章】

まほうの どうぐ「せんす」

せんすは、日本で むかしから つかわれている、
風をおこす どうぐです。

せんすは、どこでも すきなように 風をおこ
す ことができます。中でも 外でも あるきな
がらでも 風をおこすことが できます。あおぐ
はやさを かえるだけで、風のつよさを かえるこ
とが できるからです。

また、せんすは、どこにでも もちあるくことが
できます。つかうときに ひろげて、つかわない と
きには、おりたたむことが できるからです。

さらに、せんすは、日本ぶようや あそびのどう
ぐとして つかうことが できます。紙がはられて
いて、絵や文字を かくことが できるからです。

このように、せんすは、とても べんりな もの
です。

せんすは、まるで まほうの どうぐのようです。

【扇子カード】

べんりな せんす

○どこでも すきなように 風をおこせます。

○どこにでも もちあるけます。

○日本ぶようや あそびの どうぐとして つか
えます。